



## 『いかにしたら世界平和に寄与できるか』

国際ロータリー第2510地区

2011-2012年度 ガバナー **熊澤隆樹**

(小樽RC)

2月23日はロータリー創立記念日です。そして世界理解月間でもありますので、世界平和について考えてみることにしました。

私達ロータリアンは、ロータリーの綱領（目的）を心構えの根本として行動するように言われています。綱領の4番目には「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。」とあり、我々は種々な国際奉仕活動を通じて世界平和に寄与しようとしています。その上、2013年から実施されるロータリー財団の「未来の夢計画」では「世界でよいことをしよう。」の標語のもと、「ロータリアンが健康状態を改善し、教育の支援を高め、貧困の救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること。」を使命として活動を始めます。そして、その「未来の夢計画」の6つの重点分野の1番目に「平和と紛争予防／解決」が挙げられています。これは、世界平和へのこれからのロータリー財団の大きな働きを示唆していると思われます。この重点分野の具体的な活動の一つとして、「平和と紛争解決に関する研究を支援すること。」が取り上げられています。この紛争解決に関する研究として、是非とも研究してほしいのが地球環境に優しいエコ生活です。近年、我々は便利さ、快適さ、豊かさのために多くの資源を消費しています。今やこの資源を確保することが紛争の大きな原因となっているとさえ思えてなりません。私の尊敬してやまない生長の家総裁 谷口雅宣氏は「今日の世界平和は人類と地球環境の調和なくして実現しない」と述べて、資源・環境・平和の三つの関係について取り上げています。私もこの数年、ハイブリットカー、太陽光発電、植樹活動と身近なところから始めております。

世界平和については、バネルジーRI会長は「平和を望むなら家庭に地域社会に、自分自身の生活に平和をもたらすことから始めるのです」と言っていますので、エコ生活も私達ができることの一つではないでしょうか？

ところで、ロータリアンとして国際奉仕活動としてロータリー財団を支援する他に、我々日本人には、米山記念奨学会の支援があります。これまで50年以上にわたって120ヶ国、延べ16,389人（2011年7月）今でも毎年800人もの奨学生を採用する国内民間最大の奨学事業で、2012年1月4日に移行登記が完了して「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」となりました。これまでの活動の結果として、確実にアジア近隣諸国との相互理解、親善の実が実ってきています。駐日大韓民国大使になられた崔相龍氏、権哲賢氏も奨学生学友であり、また米山奨学生の学友が中心となって東京友愛ロータリークラブが2010年3月に発足しております。その中には当地区でお世話したネパールのギリ・ラム君も入っていると聞いております。

米山記念奨学会への寄付には普通寄付と特別寄付がありますが、当地区の特別寄付は地区会員の3割しかされていません。金額は問いませんので、各人が2千円程度お出し戴ければ米山記念奨学会への大きな後押しになりますので宜しくお願い致します。

なお、今年度も引続き東日本大震災の救援活動をしておりますので、重ね重ねご理解の上、この事も宜しくお願い申し上げます。